

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4170600227
法人名	株式会社 東洋測量設計
事業所名	グループホーム ふれあいの里 たちばな
所在地	佐賀県武雄市橘町大字片白346番地 (電話) 0954-23-1810

評価機関名	社団法人 佐賀県社会福祉士会		
所在地	佐賀市八戸溝1丁目1224番2		
訪問調査日	平成 20年3月18日	評価確定日	平成 20年4月17日

【情報提供票より】(平成20年3月7日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 18 年 2 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	10 人	常勤 5 人, 非常勤 5 人, 常勤換算 6.8 人	

(2) 建物概要

建物構造	木造	
	2 階建ての	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	21,000 円	その他の経費(月額)	6,000 円	
敷金	有() 円 (無)			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有() 円 (無)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	200 円	昼食	300 円
	夕食	300 円	おやつ	円
	または1日当たり 800 円			

(4) 利用者の概要(3月7日現在)

利用者人数	8 名	男性	1 名	女性	7 名
要介護1	1 名	要介護2	4 名		
要介護3	1 名	要介護4	2 名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 85.6 歳	最低	74 歳	最高	93 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	貝原医院(内科) こばやしクリニック(内科) 寺尾歯科(歯科)
---------	---------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホーム ふれあいの里 たちばなは、古民家を改修して作られたホームで田園風景に溶け込んだ落ち着いたたたずまいである。各部屋の特徴を生かしそれぞれの入居者の個性にあった居室になっている。「その人らしく」を基本理念とし「尊敬とふれあいの念をもつ」「支えあう豊かな生活」「笑顔で穏やかな日々を過ごす」と具体的な理念を名札に入れ常に原点にかえるという職員の意識づけのもと、入居者一人ひとりの健康管理を行ない、楽しく過ごされ、あらゆる能力を引き出し支援が行なわれている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	市町との積極的な協力関係を築く事への取り組みについて、「地域だより」の配布を行なう等改善されている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価・外部評価を職員間で話し合いが行われ、職員間の改善意識につながっている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議では、区長、民生委員の活発な意見交換でサービス向上に活かされている。今後は家族が参加できるような工夫を試み、様々な意見がさらなるサービス向上に活かされることを期待したい。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	「たちばな」だよりや写真を請求書に同封したり、遠方の方へはメールで報告するなど配慮がなされている。家族からの意見、苦情は個々に対応しているが、今後は家族同士が意見を交換でき意見・苦情を言いやすい機会を作れるような支援を期待したい。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域の方へ「地域だより」を発行し、ホームの三大イベント夏祭り・敬老会・クリスマス会を開催し地域の方の参加もなされている。さらに、地域の一員として地域行事へ参加し、地元の人たちと交流を図っていく事が望まれる。

2. 評価結果（詳細）

（ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	独自の理念として「尊敬とふれあいの念をもつ」「支えあう豊かな生活」「笑顔で穏やかな日々を過ごす」とかけ、地域の方を巻き込んだ交流の場がつけられるような取り組みがなされている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	名前札の中に書き込んだ理念を入れ常に忘れないように、日々思い出し原点にかえることを心がけている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の方へ「地域だより」を3ヶ月に一度発行し、三大イベントとして夏祭り、敬老会、クリスマス会を開催し地元の人々と交流することに努められている。	○	さらに、地域の一員として地域行事へ参加し、地元の人たちと交流を図っていく事が望まれる。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価及び外部評価については話し合いを持ち評価を活かすよう取り組みがされている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、区長、民生委員等の地域の方の活発な意見がサービス向上へ活かされている。	○	運営推進会議に家族が参加されていない日が多く、家族が参加できるように工夫が望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域包括支援センターや民生委員へ「地域だより」を配布したり、情報交換を行いサービスの質の向上に取り組まれている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	「たちばな」たよりを発行し個々の利用者の請求書に写真を同封したり、日頃の状態をメールで報告し遠方の方への配慮がされている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	個々の対応で家族、職員との意向、要望、意見交換をする機会を設けられている。	○	家族、職員の意見交換だけでなく、家族が行事へ参加した際に家族同士の意見交換の機会を設け、家族が意見を言いやすい機会を設けられるよう工夫が望まれる。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	日頃から職員全員が十分に利用者を理解し支援している。又、離職時も引継ぎを充分に行うよう努められている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修は希望をとり参加を促している。職員が参加しやすいように勤務調整をし研修を受けやすい体制づくりがされている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	行事を利用して他のグループホームを見学したり、イベントの物品を貸し借りする等協力し合い情報交換も常に行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ホームの見学等入居前から馴染めるように柔軟な対応をされている。入居後も職員や他の入居者との雰囲気づくりに努め、家族とも相談しながら対応を工夫されている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者の意思を尊重し役割を持っていただき、昔ながらの習慣を引き出せるよう努められている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者が出来ない事を先回りせず、生活歴を理解した上で、希望・意向を把握し、意思表示ができない方へも様々な提案をしつつ様子を見極めて支援していくよう努められている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族・本人、職員、との話し合いで意見、要望がケアに反映されるよう介護計画が作成されている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的見直しとともに、状況・状態に応じて随時話し合いを行い、現状に即した新たな計画を作成されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	福祉移動散髪車を活用したり、通院や買い物など家族の状況や要望に応じて柔軟に対応できるように行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望するかかりつけ医を確認し、ホーム協力医院とは連絡をし合えるよう体制づくりができています。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化については、家族と随時話し合いを行い、緊急時、急変時の対応方法を確認し職員全員が共有し対応できるように努められている。	○	今後グループホームでの対応できる範囲の確認を行いながら、職員間の認識の共有として、ホームの指針を作成することが望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人記録は来訪者に見えないように工夫がなされ、入居者に関することは家族・本人に「同意書」にて対応し、個人情報の取り扱いには職員にも誓約書があり徹底されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホーム全体の日々の時間割を決めているが、入居者の意向や、以前家で暮らしていた生活パターンを把握した上で、個々にあった支援が行われている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	給食委員会で職員、入居者の好みやリクエストを記録し、食事形態に配慮が必要な入居者には個々に対応し支援している。食事準備、片付けも役割があり、入居者の個性を活かした支援がされている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	2日に1度の入浴を実施、2グループにわけているが、いつでも入浴でき、入居者の希望に添えるように支援されている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	畑仕事、食事の準備など個々の趣味・生活歴を引き出し無理強いしないように、役割・楽しみごと・気晴らしの支援がなされている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天候に合わせて、散歩、日光浴、畑仕事をしたり、当日希望を取り、お弁当持参にてドライブをしたり、外食支援等様々な取り組みがなされている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵をかけず、職員が見守りを行い対応している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年3回消防訓練を行い、夜間想定での訓練も行っており、災害時マニュアルも随時見直しがされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取は食事チェック表に記載し確認を行い、水分量も定期的にとれるように支援されている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	飾りつけ等は入居者と一緒に考え、柔らかな光が取り込まれ居心地のよい空間づくりがされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時好みの品物、身の回りのものを持参していただき居心地よく過ごしていただく工夫がなされている。		